

新宮山彦ぐるーぷ第1986回
深仙宿小屋南側の倒れると小屋直撃する枯木撤去作業

◇実施日：2018年08月20日（月） 曇のち霧雨と小雨
◇参加者：山川治雄、中村佳文、松田博行。 3名。

熊野を5時に出てR311、R168を十津川まで走り、旭口から林道旭線・栗原線で釈迦ヶ岳登山口に向かう。

太尾登山口を7時55分に出発。高度が高くなるに従って霧雨から小雨に。登山口でカッパなどを着込み小雨の中深仙宿に向かい、深仙宿避難小屋に10時55分着。

深仙宿小屋南側（裏手）の斜面に直径40cm程の枯れた大木があり、今にも倒れて小屋を押しつぶさんとするような状態である。

すでにワイヤーで倒れないよう控えられていた。この木を小屋の方に倒れないように切り倒すのがこの日のミッション。

チェーンソーの使い手・山師の山ちゃんこと山川さんとザイルワークに長けた中村さんが、ロープ三本で小屋の屋根に倒れないよう斜め後ろ方向の木にひかえて固定。アッセンションとロープを締める技で徐々に引っ張る仕掛けを作る。しかし、うまく倒れてくれるか全く不安だった。

木は斜面に生えているため足場がなく、山ちゃんは木に登ったり木の下から無理な態勢でチェーンソーを扱い、太い木を3方向から切り進む。顔中おがくずだらけ。あとの二人はロープを締める役割。

ぴしっという音がして、もう少しというところで3人が力いっぱい引っ張る。枯れ大木は見事に小屋の裏手に音を響かせて倒れる。歓声を上げ思わず3人で手を取り合って喜んだ。1時間ほどのスリルに満ちた作業を終える。

肝心の倒木作業写真を撮り忘れてしまったことです。何しろうまくいくか心配で写真どころではなかったということです

昼食をとり、深い藍色のトリカブトが咲き誇る稜線を下った。



倒れると小屋直撃の枯木



倒れないようにロープ控え・



倒れる直前にロープ締め引っ張る



伐採撤去後の切り株

行動タイム

熊野市5:00→7:45釈迦ヶ岳・太尾登山口7:55→10:55深仙宿小屋
↓作業↓深仙宿（昼食）11:50→14:10太尾登山口。

（記；松田）